

時 報

第 33 卷 第 7 號 昭和 12 年 7 月

中央電氣板倉發電所計畫概要

かねて工事施工認可申請中であつた荒川水系關川筋板倉地點は最近關係各官廳の認可を得たので感々工事に着手する事となつた。本地點は相當以前より工事に着手する様豫想されてゐたが、灌溉用水問題に就て難色ありし爲に現在迄延々となつてゐたものであるが、最近電力需要増加の趨勢に刺激されて兩者互に歩み寄り、最近円満に手打ちとなり、こゝに着工の運びとなつたのである。

図-1.



計 畫 概 要

- (1) 使用河川： 荒川水系關川外 2 溪流
- (2) 取水口位置： 既設鳥坂發電所放水水路
新潟縣中頸城郡泉村大字卷淵
關川本流 同縣同郡同村同大字
大 熊 川 同縣同郡板倉村大字不動新田
小 熊 川 同縣同郡同村大字中ノ宮
- (3) 放水口位置： 同縣同郡同村大字 吉増字治郎五郎
742 番地
- (4) 使用水量： 最大使用水量 17.80 m³/sec (鳥坂發電所放水 14.30 m³/sec, 關川本流 2.39 m³/sec, 大熊川 0.86 m³/sec, 小熊川 0.25 m³/sec, 常時使用水量 5.01 m³/sec)
- (5) 有効落差： 61.5 m
- (6) 發電力： 最大 8780 KW, 常時 2300 KW
- (7) 取水口： (イ) 既設鳥坂發電所放水プールよりサ

イフォンにより本流取水堰堤々体内を流下す。

- (ロ) 取水堰堤直上流右岸に河身に直角に開口す。既設鳥坂發電所停水の場合は直接本川より最大使用水量を取水し得る設計とす (水門 5 門設置側壁高 1.52 m, 拱矢 0.305 m)
- (ハ) 大熊川及小熊川より夫々補給用水量を取水し得る設計とす。
- (8) 取水堰堤： (イ) 既設鳥坂發電所放水プールには取水堰堤を設置せず。
- (ロ) 關川本流： 河身に直角に築造，高さ 590 m, 天端巾 2.27 m, 敷巾 15.8 m, 前面法 0.5, 後面法 2.0, 全長 52.50 m, 表面野面石張裏詰玉石入コンクリート造，土砂吐水門 2 門設置，高 7.10 m, 幅 2.73 m
- (9) 沈砂池兼調整池： 取水口に隣接して設置，長 210.0 m, 幅員最大 84.0 m, 最小 35.5 m, 側壁法 1.0~1.5 張石練積造，田圃を掘鑿して設置，水深最大 5.16 m, 最小 2.12 m, 有効水深 2.12 m~3.00 m, 有効容量 32 000 m³
- (10) 水路： (イ) 既設鳥坂發電所放水プールよりの取水サイフォン型，馬蹄型，鉄筋コンクリート造 巾 3.64 m, 拱高 0.91 m, 側壁高 1.06 m, 長 10.8 m, (ロ) サイフォン調整池間連絡水路，暗渠，馬蹄型，巾 3.95 m, 上部半径 1.96 m, 側壁高 1.06 m, 長 295 m, (ハ) 分水池，水槽間(本水路)： 互長 4 850 m, 暗渠及隧道，馬蹄型，上部半径 2.00 m, 側壁高 1.82 m, インバート深 0.243 m, 半径 5.46, 全部コンクリート造，巻厚 0.365 m~0.455 m, 水路勾配 1/1 200
- (ニ) 大熊川及小熊川水路： 大熊川水路，長 1 960 m, 勾配 1/600, 隧道，巾 1.06 m, 側壁高 1.21 m, 拱 0.152 m, 水路始點より 840 m 下流の地點に於いて小熊川の引水を合流せしむ。
- 小熊川水路，長 1 120 m, 勾配 1/600, 水路型式，形狀等は大熊川と同断。
- (11) 分水池： 沈砂池兼調整池に近接して下流側水路途中に設置，灌溉用水に必要な水量は 3 門の分水門より放水夫々既設灌溉用水路に連絡せしむ。
- (12) 水槽： 無圧力水槽，長方形，長 36.50 m, 巾 18.20 m, 水深最大 4.50 m, 最小 3.74 m
土砂排用側溝，土砂吐水門(1 門)，餘水溢流路，制水

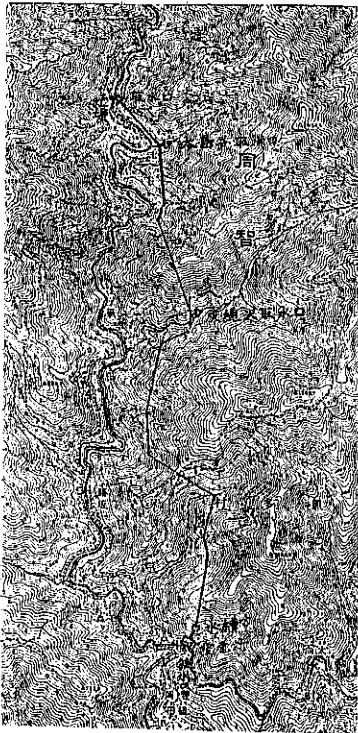
門(4門鉄製)等設置す, 全部コンクリート造。

- (13) 水圧鉄管路: 3條, 銲接のフランジ接合, アンカーブロック5ヶ所設置, 直径1.82m~2.12m, 厚さ0.00635m~0.0127m, 長3條合計270.0m
- (15) 放水路: 暗渠, 馬蹄型にして本水路に同じ, 互長435m, 勾配1/2000
- (15) 水車: 横軸フランシスタービン, 3箇各4000HP
- (16) 発電機: 3箇, 3000KW
- (17) 工事費: 2489000円 (編輯部)

中部電力豊岡地点発電計画概要

本地點は元天龍電氣のものであつたが, 會社合併により, 中部電力に於て之を継承し, 愈々最近工事着手の運びとなつた。

図-2.



本発電計画は天龍川支流氣田川本川にコンクリート造重力堰堤を築造し, 此の湛水池を調整池として利用し, 水路途中に於て, 支流大島谷及灰細澤の水を併せ取水し発電せんとするものである。

計 画 概 要

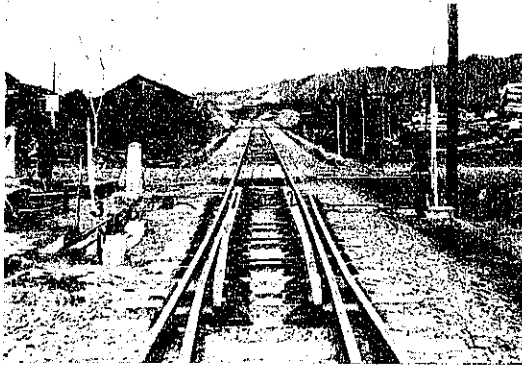
- (1) 使用河川: 天龍川水系氣田川外 2 溪流
- (2) 取水口位置: 氣田川: 静岡縣周知郡水窪町大字山住地字大島山
大島谷: " " " " "
灰細澤: " " 氣田村大字豊岡字灰細山
- (3) 放水口位置: " " " " 宇石切渡
- (4) 使用水量: 最大 5.01 m³/sec, 常時 1.11 m³/sec
- (5) 有効落差: 最大使用水量時 213.1 m, 常時 212.9 m
- (6) 発電力: 最大 8130 KW, 常時 1810 KW
常時尖頭 4530 KW
- (7) 取水口: 堰堤上流 127 m の左岸に開口す。取水門 2 門設置, 之に隣接して巾 2 m の木材流入門扉を設置す。
- (8) 堰堤: 河身に直角に設置, 重力式コンクリート堰堤, 高 14.54 m (内 4.24 m は鋼鉄製ストーンゲート) ストーンゲート 1 門, 高 4.24 m, 巾 18.18 m, 堰堤長 26.97 m, 堰堤敷巾 30.30 m, 同天巾 1.82 m, 上流側勾配 0.10, 下流側勾配 0.80
- (9) 調整池: 全容量 285800 m³, 有効容量 27000 m³
利用水深 0.91 m
- (10) 水路: 殆ど全部隧道 (自第 1 號至第 18 號) 互長 7871 m (内 269 m は蓋渠及開渠), 勾配 1/600, 巻立厚 0.18 m~0.30 m, 馬蹄型, 高 2.197 m, 敷巾 1.666 m, 拱半径 0.963 m, 側壁及仰拱半径は夫々 2.367 m
- (11) 水槽: 無溢流式平面円形コンクリート造調圧水槽, 内径 5.00 m, 深さ 10.00 m
- (12) 餘水路: 餘水路は水槽に設けずして開渠の一部に設く。
- (13) 水圧鉄管路: 互長 379.4 m, 軟鋼製銲綴, 内径 1.212 m~1.667 m, 厚さ 0.006 m~0.023 m, 1 條 (但し途中にて 2 條に分岐す), アンカーブロック 3 ヶ所設置。
- (14) 放水路: 4 本, 勾配 1/10, 高 2.12 m~3.33 m, 巾 1.52 m, アーチ型, 張石コンクリート造暗渠。
- (15) 水車: ベルトン水車, 横軸聯成單輪複射式, 2500 KW, 400 回転/毎分, 常用 4 箇 (2 箇を以つて 1 組とす。)
- (16) 発電機: 交流発電機, 5000 KVA, 力率 80%, 60 サイクル, 400 回転/毎分, 常用 2 箇。
- (17) 工事費: 22000000 円 (編輯部)

鈍端ポイントの現場豫備試験

本年 8 月烏山線(東北本線宇都宮よりの支線)烏山驛構内で図-3 に示す鈍端ポイントの試験を行ひ目下使用中である。

このポイントは図-3 の (1), (2) の如き護輪鋼及 (3) の齒車式転換器を使用することにより、在來の鈍端ポイントの持つ缺點を除去し、このポイントを大型機關車が高速度で通過する箇所に使用する高級ポイントと

図-3.

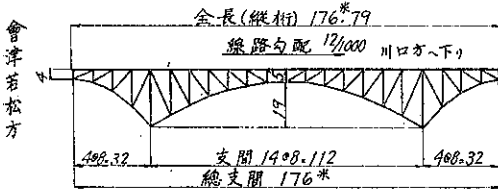


する目的で設計したものであるから此の試験の結果多少の改良を施して近く高速度列車運転區間に於て試験を行ふ豫定である。(沼田政矩)

川口線第 1 只見川橋梁 2 鉸鋼拱の設計

會津柳津より只見川に沿つて川口に通ずる川口線の第一只見川橋梁に 2 鉸鋼拱の單線鐵道橋を架設することとなり鐵道省大臣官房研究所第四科に於て設計を終り目下株式会社汽車製造所に於て製作中である。

図-4. 第一只見川橋梁

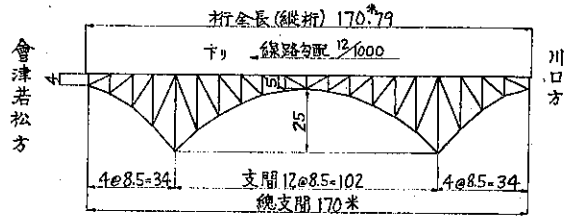


本橋梁は全長 176 m, 中央径間 112 m, 側径間各 32 m, 設計荷重 K.S. 15, 總重量 815.8 t であつて本邦鐵道橋に於ける 2 鉸拱橋の最大なるものである。(圖-4)

本橋の設計に際して考慮せる主要なる點は次の如くである。

(1) 高森線白川橋梁に於て列車横振動の大なる點に

図-5. 第三只見川橋梁



鑑み其の幅員を 0.8 m 増大して 6.6 m とした。

(2) トッゲルは 33.6 t の眼力を受け且つ上弦に取付けある爲トラベリングクレーンの移動及最後の取除き等に不便あるを思ひ之に代べく橋臺上下弦材にリフティングジャッキを取付け エレクションの調節をなさしむ、其の働き 30 cm, 能力は最大張力 60 t, 圧力 35 t に耐えしむる設計である。

尙同研究所に於ては目下図-5 の如き川口線第三只見川橋梁の 2 鉸拱橋を設計中である。(編輯部)

小河内貯水池の地質調査

東京市第 2 水道擴張計畫の小河内貯水池は昨年 7 月主務官廳の認可を得て昨年末から準備工事の一部に着手したのであるが、本工事の主要部分たる堰堤は高さ約 149 m, 堤長 345 m の重力式非溢流型コンクリート直線式の大堰堤であるため、地質其の他充分の調査研究を行つた。尙萬全を期する爲に東京市小河内貯水池建設事務所長小野基樹氏は物理地下探査法研究會へ彈性波式及電気抵抗式地質調査方を依頼したので同會は 6 月 1 日より 10 日間に亙りて (1) 断層帯の破壊度の探究及 (2) 岩屑土の厚さの測定を行つた。

(編輯部)

都市計畫關係決定事項

(昭和 12 年 5 月中)

1. 市制施行： 瀧島縣平町及平窪村を廢し其の區域を以て 6 月 1 日より平市をおく、之で全國市總數は 144 となる。

2. 市街地建築物法適用： 山梨縣谷村町(施行令第 31 條及同法施行規則第 149 條の 2 の規定により指定) 千葉縣松戸町(施行規則第 149 條の 2 の規定により指定), 石川縣山代町(施行令第 31 條及施行規則第 149 條の 2 の規定により指定), 神奈川縣葉山町

(施行規則第 149 條の 2 の規定により指定)。

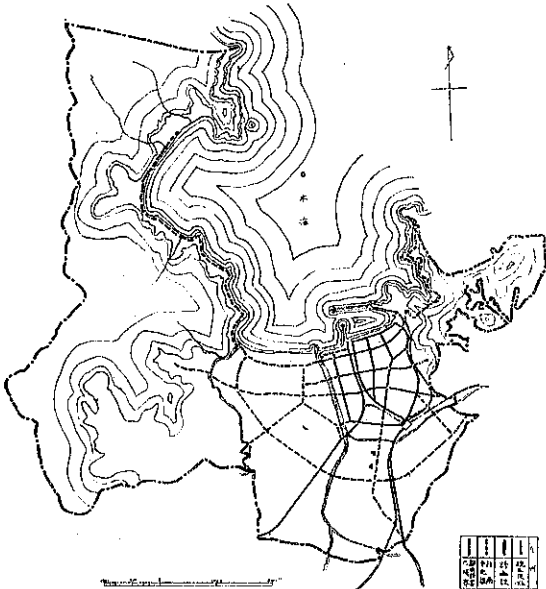
3. 都市計畫法適用：静岡縣鷺津町、愛知縣豐川町、鳴海町、高濱町、勝川町、新潟縣糸魚川町、柳尾町、石川縣山代町、神奈川縣葉山町。

4. 都市計畫區域決定：鷺津（静岡縣鷺津町の區域）、豐川（愛知縣豐川町の區域）、高濱（同高濱町の區域）、糸魚川（新潟縣糸魚川町の區域）、山代（石川縣山代町の區域）。

5. 都市計畫の決定、街路：米子都市計畫街路追加（20 線延長 6.22 km, 事業費 406 856 円）、福井縣敦賀都市計畫街路（11 線, 延長 18.23 km, 事業費 3 220 735 円）、徳島縣小松島都市計畫街路（22 線, 延長 38.74 km, 事業費 2 531 990 円）、同撫養都市計畫街路（21 線, 延長 22.54 km, 事業費 3 008 909 円）、山形縣米澤都市計畫街路（42 線, 延長 72.57 km, 事業費 4 373 169 円）、同酒田都市計畫街路（37 線, 延長 61.85 km, 事業費 4 513 467 円）。

區劃整理：石川縣金澤都市計畫土地區劃整理（面

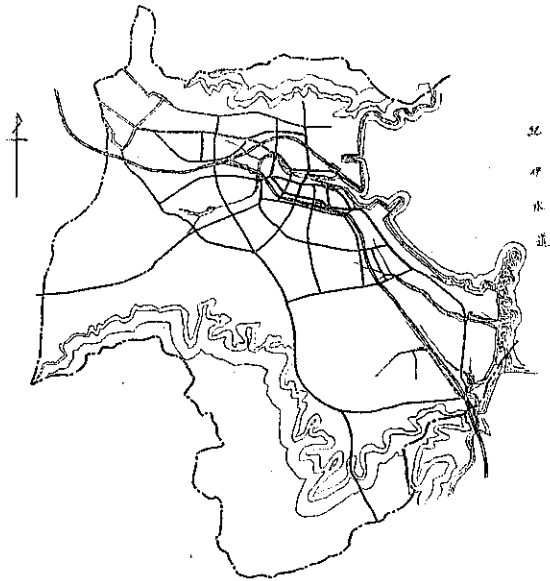
圖-6. 敦賀都市計畫街路



積 108.60 ha)。公園：群馬縣太田都市計畫公園（東山 32.1 ha, 西山 6.2 ha)。風致地區：石川縣金澤都市計畫風致地區（卯辰山 177.45 ha)、奈良縣奈良都市計畫風致地區（西ノ京 80.0 ha, 菖蒲池 535.0 ha, 山陵 100.0 ha, 都跡 175.0 ha, 佐保山 450.0 ha)、若草山

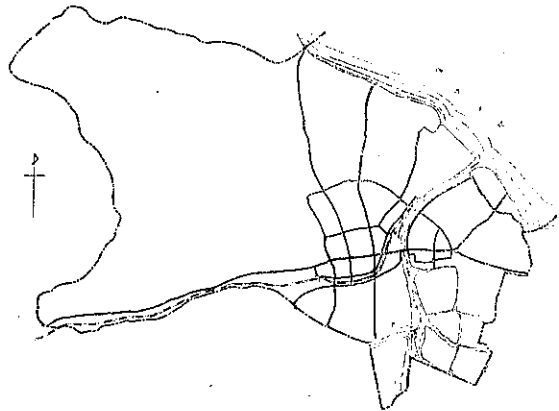
1 550.0 ha)、福島縣若松都市計畫風致地區（舊城跡 35.8 ha, 八幡山 34.4 ha, 御茶園 3.4 ha, 東山 1512.2 ha, 大

圖-7. 小松島都市計畫街路



川 33.3 ha)、兵庫縣洲本都市計畫風致地區（三熊山 405.6 ha, 溯風 328.0 ha, 太郎池 62.5 ha)、同西宮都市計畫風致地區（3 745.72 ha)。地域：福井縣福井都市計畫地域（住居 887.18 ha, 商業 412.05 ha, 工業

圖-8. 撫養都市計畫街路



188.92 ha, 未指定 490.40 ha, 計 1968.55 ha)。

6. 都市計畫事業の決定、公園：群馬縣太田都市計畫事業公園（東山 32.1 ha, 西山 6.2 ha, 事業費 29 332 円, 昭和 11 年度, 町長執行)。區劃整理：岡山縣倉敷都市計畫土地區劃整理事業（面積 2.35 ha, 事

業費 114 000 円, 昭和 12 年度, 倉敷市施行)。

7. 土地區劃整理組合の設立: 福岡縣八幡都市計

圖-9. 米澤都市計畫街路

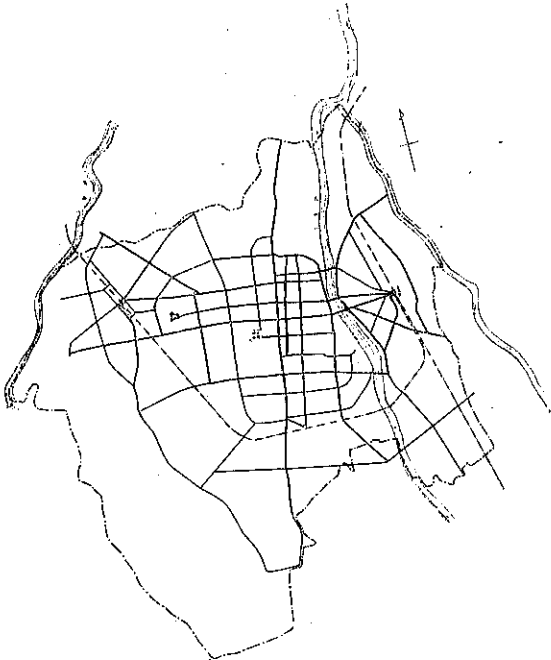
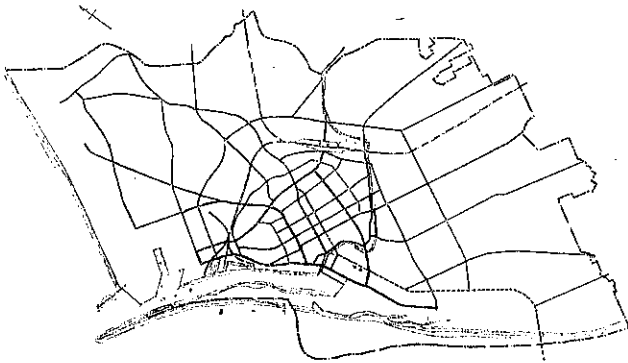


圖-10. 酒田都市計畫街路



畫區域内西部 面積 83.74 ha, 整理費 240 000 円), 長野縣長野都市計畫區域内若里第一 (面積 5.14 ha, 整理費 26 912 円) 宮崎縣富高都市計畫區域内富高第 3 (面積 9.31 ha, 整理費 55 000 円), 同第 4 (面積 8.40 ha, 整理費 37 460 円)。(編輯部)

内務省土木試験所試験調査の近況

茲に昭和 12 年 2 月 1 日處務細則を改正した内務

省土木試験所では, その試験調査の分野を 3 科に分割し, 現在次の如き事項に就て實施中である。

第 1 科: 主として土質, 道路の構造, 材料及交通に關する事項を掌る。目下實施中の試験調査のものは下の如くである。

I-1. 路面の滑り抵抗及横滑抵抗に關する試験並に光の吸收率と反射率に關する試験。

I-2. コンクリート堰堤の漏水及池水中の水素イオン濃度並に温度の変化に關する調査。

II-1. 江戸川水門及閘門の基礎杭の支持力に關する試験。

II-2. 江戸川水門工事用コンクリートの強度に關する試験。

III-1. 本邦各地の國府縣道の路床土に關する土質試験。

III-2. 現場コンクリートの強度並に之に及ぼす施工季節, ミキサの容量等の影響に關する試験。(丁)

III-3. 瀝青乳劑製造設備製法に關する調査並にその品質に關する試験。(丁)

III-4. 國道第 1 號路線の道路調査。

III-1. 檢收試験成績より見たる瀝青乳劑の品質比較並に最近の趨勢に就て。

IV-2. 瀝青コンクリート鋪裝の切取体試験結果より見たる鋪裝性質の比較。

V-1. 簡易鋪裝の工法に關する試験。

V-2. 各種セメントの熱的特性に關する試験。

V-3. 各種セメントに關する比較試験。

V-4. 構造用コンクリートの力学的性質に關する試験。

V-5. 鋪裝コンクリートの長期に於ける力学的性質に關する試験。

V-6. 鋪裝コンクリート床版の温度に及ぼす気温の影響に關する試験。

V-7. 鋪裝コンクリートに關する試験方法に就て。

V-8. 骨材の最大密度の粒度に關する試験。(丁)

V-9. 各種アスファルト乳劑の製法, 性質並にその使用法に關する試験。

V-10. タール乳劑の製法並に低温度の安定度に關する試験。

第 2 科 主として水理, 河川及港灣に關する事項の試験調査事務を掌るもので, 目下實施中のものは次の如くである。

- I-1. 河底の洗掘作用に關する調査並に實驗。
 II-1. 河川工事事業の強度並に耐久性に關する實驗。
 II-2. 江戸川河水統制水門の水叩並に導流堤の形狀が河床下流航路の水深に及ぼす影響に就いての模型實驗。
 III-1. 利根川河口工事が河口流況及砂洲の移動に及ぼす實驗的研究。
 III-2. 茨城縣海岸の港灣に於ける漂砂の調査。
 V-1. 余水吐水路内の流動に關する實驗。
 V-2. 防波堤に作用する波の圧力並に最も有效なる防波堤形狀の研究。
 V-3. 矢板擁壁崩壊の設計に關する研究。
 V-4. 土堰堤内部に於ける滲透水の狀態に關する研究。
 V-5. 堰堤基礎の撰定に關する地質學的資料調査。

第 3 科：之は構造物に關する事項を取扱ふ。

- II-1. 全熔接鋼板桁に關する調査。
 II-2. 鉄筋の熔接接手に關する研究、江戸川河水統制水門の工事事業用鉄筋の熔接。
 II-3. 江戸川河水統制水門工事事業基礎版の計算。
 V-1. 鋼道路橋の經濟的設計に關する研究、(ゲルバ型鋼板桁橋標準型の設計)。
 V-2. 道路橋に關する資料調査、(道路橋構造の最近の趨勢に就て)。
 V-3. 円形基礎版の研究。
 V-4. 彈性地盤上の円形水槽。
 V-5. 側面隅肉熔接接手の応力傳達に關する研究。
 V-6. 伸鉄の強度に關する調査。
 V-7. 鉄筋コンクリート版と鋼桁との共力作用に關する實驗。

(編輯部)

土木主任官會議

恒例の全國府縣土木部課長會議は去る 6 月 1 日より 3 日間内務省會議室に於て開催、全員出席の裡に盛澤山の議題を審議し、會期を 1 日延長して終了した。尙同會議は近來益々増加の傾向を示つゝある交通量に刺戟せられて街路構造令、道路構造令及之等の細則中改正案等注目すべきものがあつた。

會議の狀況は大體次の如くである。

指示事項

- 第 1 日
 水害の防止軽減並に河川愛護思想の涵養に關する件。
 河川の維持管理に關する件。

- 水害防除施設の施行に關する件。
 砂防事業の計畫施行並に施行後の取締に關する件。
 災害復舊工事の進捗に關する件。
 河川統制調査に關する件。
 河川の水理に關係ある事業の計畫並に施行に關する件。
 堰堤の監督に關する件。
 河川關係技術官の研究獎勵に關する件。
 國庫補助府縣道改良事業の執行に關する件。
 道路改良綜合計畫協議會に關する件。
 都市計畫區域内に於ける道路改良に關する件。
 省營自動車運輸事業の爲にする道路改良に關する件。
 道路と鐵道軌道との交叉に關する件。

第 2 日

- 下水道工事事業の企畫監督に關する件。
 港灣の企畫經營に關する件。
 港灣の資源調査に關する件。
 臨海工業地帯に關する件。
 港灣と飛行場との關係に關する件。
 港灣使用料に關する件。
 港灣工事事業の施行に關する件。
 都市計畫と一般道路事業の施行との調和に關する件。

注意事項

- 鉄の需要調整に關する件。
 中小河川の調査に關する件。
 河川生産物の採取取締に關する件。
 府縣道路線認定に關する件。
 電柱建設等の爲にする道路占用に關する件。
 道路を占用せる國有鐵道との平面交叉除却費負擔に關する件。
 交通調査に關する件。
 公有水面埋立免許料の徵集に關する件。

諮問事項

- 街路構造部並 同細則別册要項の通り改正せんとす意見如何。
 道路構造部及街路構造部中橋梁に關する過程の改正意見如何。

第 3 日 協議事項

- 道路舗裝の選擇標準及其の維持修繕に關する件。
 以上の協議事項の他に府縣待遇技師増員、土木技術員待遇改善等に關する熱烈なる地方技術官の叫び等もあり、極めて活氣旺盛せる會議を了した。尙一同の中有志者は午後内務省土木試驗所の見學に向つた。

(編輯部)

故古市男の銅像除幕式

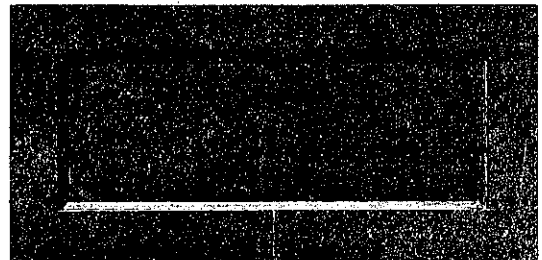
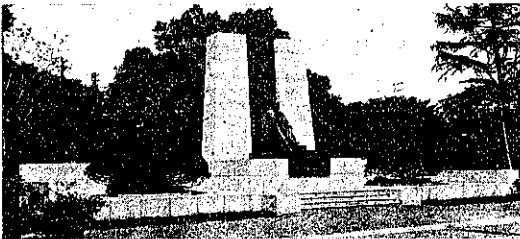
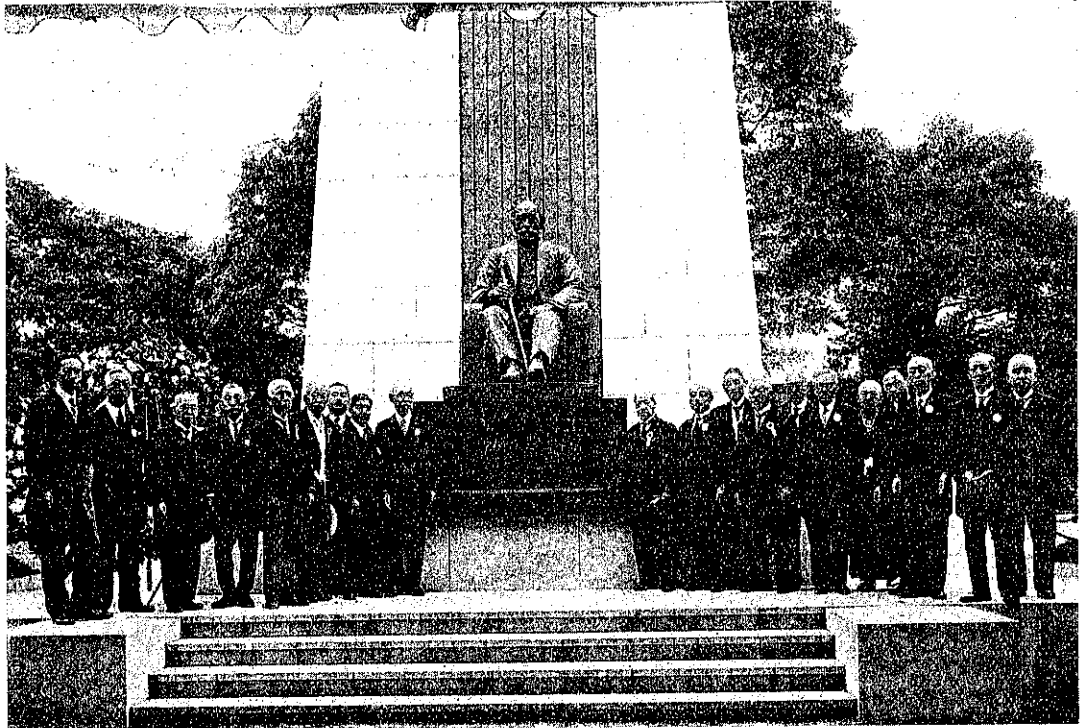
昭和9年1月故人となられた東大名譽教授、本會初代会長、男爵古市公威博士の遺徳の表頌する銅像建設は同博士記念事業委員會の手で進められこの程同大学工学部本館脇の廣場に見事に竣工したので5日午後2時、盛大な銅像除幕式を舉行した。

式場には故博士の長男古市六三氏が千穂子夫人と6人の子を伴ひ大阪から列席し、來賓には平沼騏一郎男、林權助男、水野練太郎氏、嘉納治五郎氏、鈴木孝

雄大將等の諸名士を始め工学界、大学關係者等300餘名參列した。定刻令孫の治子嬢の手によつて紅白の幕が引下されると杖を右手に軽く支へ、ソファに腰を下した故博士の坐像が恰も生けるが如くサツと現れる。この坐像は高さ27尺、24尺の衝立を背にした堂々たるもので彫塑家彌進二氏の作である。

かくて平沼男、長與東大總長の祝辭があり、遺族を代表して古市六三氏が謝辭を述べ茶菓の宴に移つて午後3時半散會した。(編輯部)

図-11. 除幕式の光景



第 25 回保線講話會

鉄道省工務局保線課主催の第 25 回保線講話會は去る 5 月 25 日より 3 日に亙り帝國鐵道協會に於て開催せられた。

本講話會は第 4 回迄は専ら講演を行つたのであるが第 5 回からは講演の外に討議を加へ第 9 回からは講演と討議を分離して春は講演會、秋は討議會として今日に及んで居る。

其の間講演會にありては一般保線業務に關する調査研究、軌道機構に就ての特種調査或は海外視察談等頗る廣範圍に亙り何れも多年の経験や目新しい理論と深い觀察に基き、有益なものばかりで保線知識を涵養し保線業務を指導した效績は實に偉大と言へよう。

一方討議會に於てはオール保線の眞熟なる研究調査により既に決定した作業基準に枕木更換、軌條更換、道床搗固め、枕木制止、道床篩分、軌條遊間整理、同位進防止、同接目落防止並に整正作業等であつて、之亦國鉄保線史を飾るものである。因に今回の演題は次の如きもので實に盛會を極めた。

- (1) 軌條に生ずる振動の測定とその応用に就て
東鉄 技手 今井 四郎
 - (2) 總搗を原則とする保守方法と斑直しを原則とする保守方法との優劣に就て
名鉄 技手 岡田 清七
 - (3) 信號用雷管を裝置する距離に就て
仙鉄 技手 加藤 清
 - (4) 最近の獨逸の橋梁に就て
研究所 技師 稻葉 權兵衛
 - (5) 氣象に就て 中央氣象臺技師 大谷 東平
 - (6) 新線保守に就て 札鉄 技手 齋藤 武之助
 - (7) 災害応急工事に對する事務的處置に就て
仙鉄 書記 後藤 健幸
 - (8) 積雪防止林の造成に就て
新鉄 技手 齋藤 陽吾
 - (9) 保線用鍛冶場に就て
大鉄 技手 田口 重一
 - (10) 主要側線に於ける分岐器の破損に就て
名鉄 技手 水野 藤一
- (活動寫眞映寫午後 5 時より約 1 時間)
- (イ) 白 麿 征 服 工務局保線課 40 分
 - (ロ) 名古屋驛切替工事 名鉄工務部 20 分
 - (11) 枕木制止作業施設の現況に就て

- 札鉄 技師 坂部 勝夫
 - (12) 石炭輸送と保線 門鉄 技手 奥村 舜造
 - (13) 輸出軌條製作に就て
本省保線課技手 柴田 末吉
 - (14) 古軌條に據る橋桁の補強溶接の考察
東鉄 雇 五十嵐 進
 - (15) 作業方法の醫學
日本勞働科學研究所 醫博 石川 知福
 - (16) 佐賀線に於ける可動橋の保守
門鉄 技手 春名 禎伍
 - (17) 新線開業後の線路保守に就て
大鉄 雇 前迫 隆男
 - (18) ベルリンに於けるオリンピック輸送に就て
本省保線課技師 石田 二郎
 - (19) 岡山訓練丁場の現況と線路工手教養機關確定の要望
廣鉄 雇 田村 輝清
 - (20) 十和田省營自動車路線監視に就て
仙鉄 技手 鎌田 鎌
 - (21) 雪の保線作業に就て
名鉄 技手 牧次 吉郎
- (活動寫眞映寫午後 5 時より)
- 札鉄管内大演習 札鉄保線課 90 分
 - (22) 曲線路(主として複線)に於ける緩和曲線長を列車の進出入側により不同にする調査報告並に是に對する私見
大鉄 技師 岡村 一彦
 - (23) 轆又更換の正しい認識
新鉄 技手 瀬戸 幸松
 - (24) 氣象觀測實績に就て
仙鉄 技手 圓子 得二郎
 - (25) 軌條癖及軌條癖の矯正に就て
廣鉄 雇 山崎 武雄
 - (26) 軌道保守上より見たる道床の批判
門鉄 鐵道手 山部 義人
 - (27) 新線路保守作業の特異性と其の難易に就て
札鉄 雇 松本文
 - (28) 勞働管理に於ける心理學的諸問題
日本勞働科學研究所 文博 桐原 葆見
 - (29) 東亞の鐵道概況
本省保線課 技師 上村 義夫
 - (30) 小海線を脅したるヤスデに就て
名鉄 技手 加瀬 幸平
 - (31) 2 挺跨ぎ補強材の效果及運用に就て

- | | | |
|-------------------------------|--------------|----------------|
| | 仙鉄 雇 白石 米藏 | (イ) 鉄道省大臣官房研究所 |
| (32) 軌條遊間の一考察 | 門鉄 技手 松永 春喜 | (ロ) 鉄道省木材防腐工場 |
| (33) 路盤改良工事の体験に就て | | (ハ) 中央氣象臺 |
| | 廣鉄 技手 番本 丈一 | (ニ) 横河橋梁製作所 |
| (33) 軌道情勢図表に就て | | (ホ) 山本工場 |
| | 東鉄 技手 日比野 武雄 | (ヘ) 日本鉸釘株式會社 |
| 尙 5 月 28, 29 の兩日に亘り列席者各自の希望によ | | (ト) 日本ペイント株式會社 |
| り工務局軌道成績調査區域其他下記箇所の見学を行 | | (チ) 理化学研究所 |

(編輯部)

つた。